



大手町アカデミア×人間文化研究機構コラボレーション 無料特別講座



# 人類は何を 食べてきたか？



—— フィールドワークから探る肉食の30万年

2019年12月4日(水) 18:30～(18:00開場)

## 概要

私たち人類は、これまで何を食べてきたのでしょうか？ たとえばキリン、ライオン、チーター、ワイルドキャット、アザラシ、セイウチ……これらは講師とナビゲーターがフィールドワークで食べてきたものの一例です。

かつて狩猟や採集の時代には、世界の食文化は多様性に満ちていました。その後、農耕や家畜飼育が始まり品種化も加わることで、食はどのように変わったのでしょうか。近代化によって、人類の生活ははたして豊かになったかどう

かは意見の別れるところですよ。

食のなかで「肉食」は、いったい人類に何をもたらしたのでしょうか。ホモ・サピエンスが誕生したとされる30万年前の過去から現代文明にいたるまで、肉食が世界中に展開して拡大を続けています。ここでは、ますます需要が増加する肉食に焦点を当てながら、最近の和食や健康食ブーム、「共食」から「個食」への変化にもふれながら、地球環境史の視点からホモ・サピエンスの食の未来を展望します。

## 講師紹介



**池谷和信** (国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授/総合研究大いけ や かず のぶ 学院大学・文化科学研究科長)

静岡県生まれ。東北大学大学院理学研究科博士課程退学。博士(理学)。著書に『狩猟採集民からみた地球環境史』『人間にとってスイカとは何か』『わたしたちのくらしと家畜』。



**Navigator**  
ナビゲーター  
**岸上伸啓**

人間文化研究機構・理事/国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・教授(兼任)

高知県生まれ。著書に『イヌイット』『カナダ・イヌイットの食文化と社会変化』。

会場：読売新聞ビル3階「新聞教室」  
東京都千代田区大手町1-7-1

※お申し込みはこちらから

<http://otemachiacademia.peatix.com/>  
(ご利用にはPeatixのアカウント登録が必要です。)

※企画内容は予告なく変更になる場合があります。

※先着順の受付となります。定員に達し次第、受付終了となります。

お問い合わせ t-academia@yomiuri.com

ツイッター <https://twitter.com/oteacademia>

フェイスブック <https://www.facebook.com/otemachiacademia>

会場：読売新聞ビル3階新聞教室

